令和3年度　北中の教育

教育目標

【自　主】
自ら学ぶ生徒
- 目標をもち、達成に向けて主体的に学習する生徒
- よく聞き、考え、判断し、自らの言葉で表現する生徒
- 互いに協力し、仲間と共に学力を高め合える生徒

【友　愛】
豊かな心をもつ生徒
- 思いやりや感謝の心をもち、明るく生活できる生徒
- 互いに察し合い、折り合いをつけて生活できる生徒
- 責任をもち、集団の一員として生活を向上させる生徒

【健　康】
心身共にたくましい生徒
- 進んで運動に親しみ、体力・気力を高める生徒
- 健康・安全に対する知識・態度・習慣を身に付けた生徒
- きまりを守り、自らを律することのできる生徒

いきがいのある学校
～未来を生き抜く力の育成～

自立の基礎の育成
○キャリア教育を通して高める６つの姿を、日々の授業や生活、行事などで意識し、教育活動全体を通して実践する。
○自問清掃を通して、自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成に取り組む。
○ノーチャイム・ノー号令の意味を理解し、「時を守り」「場を清め」「礼を正す」社会人としての基礎が身に付くようにする。

確かな学力の向上
○新学習指導要領で整理された資質・能力の３つの柱が、バランスよく育成できるように教育課程を編成し、指導に当たる。
○学力向上委員会の機能化を図り、本校の実態に応じた学力向上対策をＰＤＣＡサイクルで実施する。
○的確な実態把握に基づき、個に応じた指導・支援を充実する。
○学習スタンダートに沿って、生徒が主役の「主体的・対話的で深い学び」になるための授業改善に取り組む。
○１人１台端末の ICT 環境を積極的に活用し、わかる喜び・できた嬉しさが実感できる効果的な授業を行う。

豊かな人間性の育成
○「特別の教科　道徳」を要とした道徳教育を、教育活動全体を通して実施し、たくましさとやさしさを兼ね備えた豊かな情操を養う。
○「北中いじめ防止基本方針」を共通理解し、全校体制で人権教育を進める。
○校内美化や言語環境の整備に努め、教育にふさわしい環境づくりを行う。

経営方針
①生徒が夢や希望をもち、将来の自立に向けた力を身に付けていくキャリア教育の視点に立った教育活動を推進する。
②生徒の実態を的確にとらえ、確かな学力が身に付くよう、問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、個に応じた支援や既習の知識・技能を活用する学習を充実する。
③個性の伸長と望ましい集団づくり・豊かな情操の育成を目指し、特別の教科道徳を要とした道徳教育の充実を図る。
④生涯を通じて健康で活力ある生活を送るために、体力向上に関わる取組や保健教育等の充実を図る。
⑤児童生徒の実態や発達段階に応じた系統性・一貫性・連続性のある指導を行う。
⑥学校経営方針や教育課程を家庭・地域と共有し、連携を深め、協働して生徒を育てることを意識した教育活動を推進する。
⑦全教職員が常に危機管理意識をもち、生徒の危険予測・回避能力の育成に努め、安全で安心な学校づくりを推進する。
⑧全教職員が教育目標の達成に向けて協働し、互いに高め合う同僚性あふれる職員集団づくりを推進する。

健康・体力の向上
○運動の楽しさと大切さを体得し、体力の向上ができるように「体力向上プラン」を推進する。
○学校保健委員会を中心に、学校課題の解決に向けた健康教育を推進する。
○体育的行事や部活動を通して、生涯体育の素地をつくる。
○感染予防について、生徒自らが判断し、よりよい行動ができるよう日常的な指導を充実する。

活力ある組織づくり
○人事評価制度の活用を通して、教職員の学校経営参画意識を高め、職能成長を図る。
○学校評価の活用を通して、学校課題の改善に組織的に取り組み、よりよい学校づくりを行う。
○規律確保行動計画に則り、教育公務員としての自覚をもって職務を遂行する。
○働き方改革の流れを自覚し、業務改善のための取組を実践する。

安心・安全な学校づくり
○危機管理マニュアルを共通理解し、危機管理を徹底する。
○学校施設設備や通学路の安全点検を徹底し、問題点へ迅速に対応する。
○適切な予算執行により、教育環境の整備・充実を図る。
○危険予測・回避能力が育成できるよう、安全教育を充実する。

家庭・地域との連携
○各種便りや Web ページ等による情報発信を積極的に行い、学校理解と連携強化を促進する。
○学校経営方針や教育課程を小学校やＰＴＡ、地域と共有し、協働して生徒の育成に当たる。

小中学校間連携の推進
○義務教育９年間を見通した学習・生活ガイドラインを作成し、小野小と連携し系統的・連続的な指導に当たる。
○学校間の教育や児童生徒の実態の相互理解を図り、効果的な指導を行うため、行事や授業を参観するなど、小野小の教職員との交流を積極的に行う。

北中学校の生徒